令和８年度第２回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

開催日　　令和８年８月２０日（木）午前９時４５分～１１時４５分
開催場所　中央公民館２階　２０３・２０４会議室
出席者　　委員：山下、善教、金岡、平原、秦、居村、齋藤
　　（計７名・欠席１名）
　　事務局４名、傍聴なし

議事
（１） 令和７年度に実施したパブリック・コメント手続の個別評価（案件 No.１～３）について・・・資料１～３

１　開会
　会議の成立

事務局　　本日の出席者は委員８名中７名で、過半数となり審議会は成立
傍聴希望者はなし。
（資料の確認及び就任した委員の自己紹介）

会　長　　（１）令和７年度に実施したパブリック・コメント手続の個別評価（案件 No.１～３）について総合評価表に各委員に評価していただき、それを事務局に取りまとめていただいた。その資料をもとに本日評価をしていく。
事務局から資料１から３について説明をお願いする。

事務局　　資料１～資料３について説明する。
資料１（集計表）　：各委員の評価（A=5 点～E=1 点）から平均点を算出。
資料２（総合評価表）：各委員のコメント一覧。
資料３（個別評価表）：案件ごとの個別評価（二重丸、丸など）の一覧。
案件 No.１～３評価事項及び課題の主要な意見を３つずつ伝える。
No.１について、評価事項は、寄せられた意見に適切かつ丁寧な回答ができており、結果一覧表も読みやすい書式になっている。概要版がコンパクトにまとめられていた。考え方・論点が明確でありごみと資源をテーマにしたキャッチも分かりやすい。課題は、計画本文への意見反映が不十分。見直し経緯の記載漏れ。重点施策の論理、期待効果の説明不足。
No.２について、評価事項は、改定箇所が新旧対照により明示されており、どこが変わったか分かりやすい。難解な財政内容を伝えようとする努力が認められる。概要版がすっきりまとめられ、伝えたいことはそれなりにまとまっている。課題は、改定理由・根拠の説明不足。パブコメ手続きとして不十分。概要版の解読性が低く、理解しづらい。
No.３について、評価事項は、概要版・本編ともにスタイルが統一され、カラー写真や図表を多用したレイアウトが良い。文章が平易な表現であり、文

字、写真、図表のサイズも適切に配慮されている。個別の具体的な場所に関する意見を含め、的確で丁寧な応対がなされている。課題は、ケアレスミスへの注意。概要版の地図の視認性。維持管理・人材確保の記載不足。

会長　　案件 No.１～３の審議に入る。まず、No.１「宝塚市一般廃棄物処理基本計画（案)」から評価を始める。各委員から意見を伺ったうえで、評価を最終的に決めていく。

委員　　ゴミという身近なテーマだったため、概要版が非常に読みやすく、内容が頭に入ってきやすかった。字が大きく読みやすいレイアウトだったこともあり、全体を通して読むことができた。日常のゴミ出しの際に何に気をつければよいかなど、生活の参考書としても活用できると感じた。ごみゼロ推進員という制度の存在を初めて知るなど、新たな気づきも得られた。一方で、現在建設中の新ゴミ処理場との関連性についての記載が少なく、その点は物足りなさを感じた。

委員　　概要版は最初に見た時から見やすいという印象を受け、好意的に評価した。ゴミは日常生活に密着したテーマであり、生活に関連する内容がうまくまとめられている点を評価した。一方で、文字が詰まりすぎている部分や内容量が多すぎる点は改善の余地があると感じた。本編についても、市民に知ってもらいたい情報をいかに伝えるかという観点から、読みやすさと情報量のバランスが重要だと感じた。今後の国の動向なども踏まえ、市民へのわかりやすい情報発信がより一層必要になると感じた。

委員　　資源ゴミと燃えるゴミの分け方がわかりにくく、実際には多くを燃えるゴミとして出してしまっている現状がある。処理施設の担当者に聞いたところ、燃えるものは何でも燃やしているとの回答であり、選別は行っていないとのことだった。そのような対応で本当に良いのかという疑問、違和感がある。ゴミ処理施設についてはあまり注目されることがないが、日常生活を支える非常に重要な存在であると認識している。全体として、市民がゴミの分別ルールを正しく理解できるよう、わかりやすい周知・説明が必要ではないかと感じた。

委員　　最近、ゴミステーション以外の場所(モールや地域の拠点など)で段ボール・雑誌・チラシ類を回収する民間業者が増加傾向にあり、そういった民間業者による回収分は、市の資源ゴミの収集量には含まれないのではないかという疑問を持っている。市の資源回収との関係や収益の行方（市に入るのか、業者のものになるのか）が気になっている。

事務局　　調べて次回伝える。

委員　　「資源として分別することでゴミを減らす」という話と、「ゴミそのものの量を減らす」という話は別の問題であると感じている。物を購入する以上はゴミが発生するのは避けられず、ゴミの総量を減らすことには限界があると考えている。そのため、減量を目標に掲げるよりも、適切に分別することを主な目標とする方が現実的ではないか。

委員　　一般廃棄物処理基本計画の概要版は非常にわかりやすく、パブリック・コメントの資料として総合的に高く評価している。一般家庭のゴミは減少傾向にある一方、事業系ゴミが課題であることや、10年で10%削減という目標など、重要な内容がきちんと記載されている点を評価した。本計画は2026年策定で10年計画、5年後に中間評価を行う構成となっており、長期的な視点で立てられている。

しかし、2026年・2031年などの節目に各部署から長期計画が一斉に出てきてパブリック・コメントが集中することには問題があると感じている。年度初めに間に合わせるスケジュールで複数の長期計画のコメントを求めることは、市民にとって負担が大きいのではないかと感じる。

委員　　計画資料の内容・構成については概ね問題なく、ゴミ処理の目標が明確に伝わっており、全体的に高く評価している。一部の図表でExcelからの変換時に文字のにじみが生じているが、軽微な問題である。主な課題は資料の内容よりも、寄せられたパブリック・コメントへの応答の部分にある。8〜10件程度のコメントについて、対応・修正が不十分または事実上スルーされている印象があり、丁寧な応答が望ましかったと感じている。しかし、全体としては80〜90点レベルの出来であり、クリティカルな問題はなく、次回に向けてコメント対応の精度を上げることができれば十分だと思う。

会長　　市民意見への応答の丁寧さも大事だが、意見を踏まえて計画に反映・修正する対応こそがパブリック・コメント制度の本来の趣旨であろう。No.1・No.12（ごみゼロ推進員制度）については、市自身も見直しを検討しているのであれば、その旨を計画に明記すべきだった。No.9・No.10（事業系ゴミ削減目標の根拠）については、市民が「わからない」と指摘しているのだから、説明を補充・追加する形で計画を修正すべきだった。No.8（国の第四次計画への言及不足）についても、説明が市民に伝わっていないのであれば、計画案そのものを修正して対応すべきだった。9ページの図の修正については、応答は制定日か施行日かという表記の統一にとどまっているが、記載内容の誤りの修正も行なわれているのではないか。

全体を通して、意見はあるか。

委員　　なし

会長　　総合評価は、Aが3名、 Bが5名ということで平均すると4.38。4以上ということで、総合評価はAでよいか。

（全員了承）

会長　　それでは、No.2「行財政経営方針改定版（案)」の評価に移る。

委員　　「行財政経営方針」というタイトルから、行政のスリム化や財政改善を扱う内容だとイメージしたが、実際の内容とギャップがあり、何を伝えたいのかがわかりにくかったと感じた。文字が小さく情報量も多いため、一般市民には内容が伝わりにくい資料になっている。DX やデジタルトランスフォーメーションという言葉が登場するが、具体的に何をするのかイメージしにくく、DX 推進ビジョンについても概念的な記載にとどまっていると感じた。市職員など内情を知る人には理解できても、一般市民がパブリック・コメントとして意見を書こうとしても、何を書けばよいかわからない内容になっている。全体として、市民向けの説明・表現の工夫が不足しており、パブリック・コメントの資料としての適切さに疑問を感じる。

委員　　理解するのに非常に苦労したというのが率直な感想。時代にふさわしい行財政経営という表現についても、具体的に何を指すのかイメージが全く湧かず、抽象的すぎると感じた。内容に入り込む以前に、文章全体の読みにくさ・わかりにくさが障壁となり、読み進めること自体が辛かった。

委員　　限られた経営資源の適正配分など抽象的な表現が多く、財政の話であれば具体的な数字や施策が示されるべきなのに、それが全くない。前回の方針から今回への変更点・変更理由が明記されておらず、特に方針 2-1（財政基盤）の部分が市長就任後に大きく書き換えられているにもかかわらず、その説明がない。子どもの医療費負担の導入など市民生活に直結する重要な政策変更が含まれているにもかかわらず、具体的な内容が見えにくい書き方になっている。結果として市民からの意見がゼロとなり、意見なし＝承認としてそのまま5年間の方針が通ってしまっていることは問題である。他の計画には審議会や外部有識者・市民代表が関与しているのに対し、本方針は市役所内部だけで決定されており、外部の視点が欠けている。パブリック・コメントとして問うべき重要ポイントが市民に伝わらない形での手続きは、制度の趣旨に反する。

委員　　概要版が A4 一枚に無理やり詰め込まれていることが最大の問題であり、丁寧な説明ができていないため、結果としてパブリック・コメントが集まらない状況を招いている。専門用語（DX・EBPM など）の説明が本編にしか記載され

ておらず、市民が最初に目にする概要版に説明がない点は明らかに問題である。他の計画では審議会委員の情報なども開示されているのに対し、本方針にはそれがなく、市民に情報を伝えようとする姿勢が感じられない。概要版にも本編にも、何を目標とし、何をしたいのかが具体的に書かれておらず、市民が内容を理解・評価すること自体が困難な構成になっている。意図的に内容をぼかしてやりたいことを通すという政治的意図がある可能性もあり、総合的に低い評価を付けざるを得ない。

事務局　　方針という性質上、具体的な施策は別の行動計画に委ねるため抽象的になるのはある程度やむを得ないが、財政赤字の現状すら記載されていない点は市民への説明として不十分であり、総合計画→行財政経営方針→経営行動計画→財政方針という計画体系の位置づけが市民に伝わりにくく、概要版の前段部分でもう少し丁寧な説明をするべきである。

また、他の計画には所管の審議会が関与しているのに対し、本方針は行政職員のみで構成する戦略本部会議で策定されており、外部の審議会が関与していないという構造的な違いがあり、その結果、外部有識者や市民代表の視点が反映されにくい仕組みになっており、わかりにくさや市民への説明不足につながっている。

会長　　この計画が何のために作られるのか、なぜ今回見直すのかという基本的な説明が全くないため、市民にとって内容が全く理解できない状態になっている。方針という性質上、本体に市民向けの詳しい説明を盛り込むことが難しいとしても、別途わかりやすい説明資料を添付するなどの工夫はできたはずである。新旧対照表で変更箇所は丁寧に示されているにもかかわらず、なぜ変更したのかという理由がどこにも記載されていないため、市民は意見の出しようがない。戦略本部で総括を行ったと記載されているが、どのような総括をしたのかも不明であり、判断の根拠が市民に示されていない。概要版を A4 一枚にまとめたこと自体は評価できるが、結果としてわかりやすい説明にも十分な情報提供にもなっていない。全体として、パブリック・コメントを実施するために必要な情報が提供されておらず、市民が意見を出せる環境が整っていない。

全体を通して、意見はあるか。

委員　　一般廃棄物処理計画の概要版には表紙に QR コードが掲載されているのに対し、行財政経営方針の概要版には表紙に QR コードがない。現代において QR コードからパブリック・コメントに参加する市民は多いと考えられるため、表紙への QR コード掲載を全計画で統一すべきではないか。行財政経営方針については募集要項のページには QR コードが掲載されているものの、表紙には掲載されていないという構成になっており、市民の目に触れにくい状態になっている。各計画でフォーマットが異なることは理解しつつも、QR コードの表紙

掲載は市として統一したルールを設けるべきではないか。

会長　　表紙へのQRコード掲載については、今後の議論に向けた問題提起として記録にとどめることとし、最終的な意見取りまとめの際に、改めてこの点を含め考え方をまとめることにしたい。

事務局　　QRコードの表紙掲載については、現状では計画によって統一されていない。パブリック・コメントの募集時には合議などで資料をチェックする機会があるため、ルールを決めれば表紙へのQRコード掲載を徹底することは可能である。

今後の審議の中で表紙掲載が望ましいという結論になれば、規定やフォーマットの改定も対応可能である。

委員　　行財政経営方針が PowerPoint で作成されていることについて、全国的にPowerPoint で計画を作成する傾向は一部で見られるものの、行財政のようなマクロ・メタレベルの重要な計画でPowerPointを使用するケースは珍しく、リスクがあると感じる。PowerPointはプレゼンテーション用のツールであり、削ってはいけない情報を伝えるべき計画には不向きであり、計画は概要版と本計画を別々に作成し、本計画はしっかりとした文書形式で作成するものだが、本方針は PowerPoint 版が本計画であり、別途 A4 一枚の概要版も存在する。

会長　　宝塚市では行財政関連の計画でPowerPointを使用した過去の事例が複数あったと記憶している。

総合評価は、Aが1名、 Dが2名、 Cが2名、 Dが3名ということで、平均は3.13である。

委員　　BをCに変更する。

会長　　他に修正等あるか。

事務局に再計算を依頼する。

事務局　　再計算の結果3.00。

会長　　3以上ということで、総合評価はCでよいか。

委員　　単純に数値で評価するだけでは不十分であり、部分的な改善の余地があるという程度の話ではなく、今回の審議を通じて多くの問題点が指摘されており、計画の内容・形式・パブリック・コメントの運用方法を含めて大きく見直す必要があり、厳しい評価を明確に示さなければ、現場の担当者が本気で見直

しに取り組まないのではないかという懸念がある。

会長　　各委員の総合評価はA・B・C・D・Eに分かれており、C以上が半数以上を占めることを踏まえ、集計上の総合評価はCとなっている。

過去の審議会でも同様の議論が繰り返されており、数値による集計評価が最もフェアな方法という結論に至ってきた経緯がある。DやEをつけづらい理由として、市民意見がゼロだったためパブコメへの対応そのものを評価できないということもある。総合評価Cはギリギリ Cであり、審議会としては厳しめの評価である。

総合評価はCを維持しつつ、Dに近いCであったという審議会の厳しい認識を議事録に明記した上で担当課に伝えることとする。

それでは、改めて総合評価はCでよいか。

（全員了承）

会長　　それでは、No.３「街路樹管理計画（案)」の評価に移る。

委員　　概要版は見栄えが良く整理された内容である一方、4ページの整備基準における〇・◎などの記号の意味が説明されておらず、読み手が内容を正確に理解できない。歩道幅 2.5m 未満の路線は緑化を行わないと記載されているが、実際には既存の緑化が存在しており、正確には新規緑化は行わない、またはメンテナンスは行わないという意味ではないか、事実と異なる表現が含まれている可能性がある。9ページの「再整備路線図」について、再整備してくれると期待して読むと実際には整備しない路線が多く含まれており、タイトルと内容が乖離している。緑化という身近なテーマであるがゆえに、市民は自分の近所の状況を基準に考えてしまう傾向があり、宝塚市全体の計画としてのパブリック・コメントが書きにくいところがある。実際に寄せられた市民意見も自分の地域に関する個別の意見が多く、市全体の計画に対する意見が集まりにくかったのではないかと感じる。

委員　　概要版はカラーで写真も豊富に使われており、見た目のわかりやすさは高く評価できる。

一方で、街路樹に対する市民の思いは人それぞれ異なり、あった方がいい、ない方がいいという意見が混在している中で、宝塚市として全体的にどうしていくのかという方向性がもう少し明確に示されるべきである。街路樹よりもベンチなど休憩できる場所の確保を求める声がある。街路樹が歩道に植えられていることで歩道が狭くなり通行しにくいという問題もあり、街路樹の整備方針を考える上でこうした課題も含めて宝塚市としての明確な姿勢を打ち出すべきである。

委員　　街路樹はあった方がよいという立場である。
ただし、宝塚市内の実情として歩道が狭い場所が多く、街路樹を植えるスペースが十分に確保されていない箇所がほとんどである。その上で、街路樹をできる限り多く整備してほしい。

委員　　街路樹の整備に積極的に反対する人は少なく、多くの市民がやってほしいと考える傾向があるため、コスト面の情報がないと費用対効果の観点からの意見が出しにくい。計画の内容や方針は示されているが、どれくらいの費用がかかるのかが概要版では把握できないため、そこまでする必要があるのかという意見を言いたくても根拠が示せない状況になっている。
街路樹という身近なテーマであるがゆえに市民が自分の生活と対比しながら意見を出しやすく、ここをやってほしい、この整理で大丈夫かといった具体的な意見が集まりやすい点は、パブリック・コメントの活用として良かったと評価したい。
一方で、概要版だけでなく本編もフルカラーで印刷・製本されていることについて、それだけの費用があるなら実際の整備に回してほしいという率直な意見ももった。

委員　　概要版は専門的な情報もわかりやすく整理されており、プロが制作したと感じられるほど完成度が高いと高く評価している。寄せられた市民意見は、こうしてほしいという要望が中心であり、計画の不備を指摘するものは少なかった。また、それらの要望に対して一定の回答・対応がなされていた。
街路樹は成長するものであるため、5 年・10 年後を見据えた長期的な視点とコスト面への言及が計画にほとんどないことは問題点である。整備する・撤去するという具体的な内容に限定した範囲では、パブリック・コメントとして十分に機能していた。
概要版 9 ページの路線図については、地名の文字がぼやけており読みづらく、土地勘のない市民には特にわかりにくい。全体として、写真・カラー・イメージ図を豊富に使用することで市民にわかりやすく伝える工夫がなされており、パブリック・コメント資料として概ね良好な出来である。

会長　　樹木の名前だけでは市民にはピンとこないところを、写真やイラストをうまく活用することで理解しやすくしている。言葉と視覚的な素材を組み合わせることで説明文の理解を容易にしようという工夫が見られる。土木系の計画はパブリック・コメント資料がカラーで見栄えが良く、予算的な余裕があるように感じた。
パークマネジメント計画についてもコンサルが関与し、概要版の作成も含めて外部発注されているようだが、プロが作成すればこれだけのクオリティのものが実現できるということでもあり、各担当課の発注方針によって資料の質に差が生じている。

事務局　　計画策定にコンサルタントが入るかどうかは予算がつくかどうかによる。一般廃棄物の計画や街路樹管理計画にはコンサルが入っているが、行財政経営方針には入っていない。

コンサルへの委託業務の範囲には通常、計画案・概要版・パブコメ用資料の作成まで含まれる。

会長　　パブコメ用の表紙・概要版・計画本体がデザインとスタイルで統一されており、コンサルが一括して制作したことがうかがえる。

さらに、次の No.4「パークマネジメント計画（案)」も同じスタイルで統一されており、コンサルが共通のフォーマットで制作していると推察している。

パブコメ募集用の表紙も含めて完成度が高く、よくできていると評価するが、コンサルが入っている計画とそうでない計画との間で資料の質に差が生じているという問題が改めて浮き彫りになっている。

表紙のデザインが他の計画とスタイルが異なる点が目を引く。質の高さが際立っている。

総合評価は、A が 5 名、 B が 3 名ということで平均すると 4.63。4 以上ということで、総合評価は A でよいか。

（全員了承）

会長　　それでは、本日予定をしていた 3 件の個別評価は以上になる。

No.4～6 の審議は 10 月を予定している。本日の意見交換も含めて、今後の進め方など何かあるか。

委員　　現状では審議会が年 4～5 回開催され、翌年度に評価を行う流れとなっており、評価のサイクルが遅すぎる。四半期ごとにパブリック・コメントを実施し、半年後に評価を回す仕組みにすれば、より迅速に PDCA が回せるのではないか。

今回審議した No.1 については、昨年 6～7 月の結果を今年 6 月に提示されたという流れであり、約 1 年のタイムラグが生じている。問題が少ない内容であればまだよいが、No.2 のように問題のある内容については、できるだけ早くダメ出しをして担当課に反省・改善を促す必要がある。

年度単位で区切って評価を行う現行の仕組みでは、実質的に 2 年程度遅れてコメントを出していることになり、改善のスピードが著しく損なわれている。

会長　　現状では昨年度実施のパブリック・コメント結果を約 1 年遅れの 12 月に審議した結果をとりまとめた答申をするという流れになっている。

半年程度に短縮するという提案については一つの方向性として受け止めたいが、多くのパブリック・コメント手続が年度末に集中しているという実態も

ある。
今すぐ結論を出すのは難しいため、第 5 回審議会での全体の意見交換の場で改めて議論することとし、それまでに事務局でも検討しておいてほしい。

事務局　会長の指摘通り、計画策定は通常年度末を目指して進められるため、パブリック・コメントも年度末に集中するのが一般的である。
一般廃棄物処理基本計画については、業務の遅れにより年度末から伸びたという経緯があるが、今年度については、環境基本計画など環境系の計画 2 件が遅れる見込みであり、それらの審議も年度をまたぐ形になる可能性がある。
ただし、こうした遅れは例外的なケースであり、評価サイクルの見直しについては、市の内部でも検討する。

会長　市のホームページに「パブリック・コメント実施状況」のコーナーがあり、意見募集中の案件について募集要項・概要版・計画案が掲載されているが、意見募集終了後は一定期間、意見一覧・市の考え方・修正後の計画案が掲載される仕組みになっている。
しかし、過去のものについてパブコメ時の資料や市民意見一覧が残っていたりいなかったりで、見るほうは混乱する。ホームページも速やかに更新してほしい。

事務局　所管課に対応していただく必要があるため、ホームページの状況を把握し、適切な状態でない場合は対応をする。

会長　それでは、以上とする。
事務局から連絡事項あるか。

事務局　次回は、10 月 9 日（金）No.4～6 となる。

会長　ここで本日は閉会とする。

閉会